



固まってしまううきがある

子どもの生活の工夫⑤



青空保育たけの子

田中康雄先生の著書『発達障害の子どもの生活の工夫と伸ばす言葉がけ』からシリーズでお届けしている「子どもの生活の工夫」5回目の今回は「固まってしまうことがあります。どうしてほしいのかもわかりません」についてです。

◇パニックとわかりにくいパニックもあります

とまどったり、不安になったりしたときに、動かずに固まってしまう「静かなパニック」もあります。パニックを起こす理由はきつとあるはずですので、その原因を探ることが大切です。また、泣きわめくような行動がないため、周囲からはその子が困っていること自体がわからないこともあります。困ったときに「助けて」「教えて」が伝えられるように絵カードなどを使うのもひとつです。

◇理由を探るゝ動けないほど混乱しているのかも

どうしたらいいのかわからないときに、動けなくなってしまう子どもがいます。大泣きをしたり暴れたりするパニックに対して、「静かなパニック」と呼ばれます。見た目には、しくしく泣いていたり、無表情でだまっているように見えたりします。周囲の人はパニックだと気づきにくく、子ども本人はとも困っているのに、周囲に「助けて」と伝えられない状態です。しばらくは、静かにそばにいて見守りましょう。話しかけるときは、否定文より肯定文のほうが、子ども本人は受け止めやすくなります。「泣いているだけじゃ、わからないでしょー」などの否定文ではなく、「泣きたないだね」「いやなことがあっただね」など、穏やかな

口調でゆつくりと、肯定文で話しかけてみましょう。返事がなくても、その子の思いがないというわけではありません。今の状況を否定しないことが大切です。

◇理由を探るゝささいなことでも原因になります

例えば、遊んでいたおもちゃをお友だちが持ち去った。お友だちが「ギャー」と急に大声を出した、散歩の予定だったのに急に行けなくなったということでも動揺して動けなくなるときがあります。その子が何をしているときに固まりやすいのか、注意深く観察しましょう。

◇環境を整えるゝ困っていることを伝えられる

困ったときに、周囲の人に「助けて」と伝えられることは、立派なスキルです。大きくなると行動範囲が広がります。「教えてください」「助けてください」を伝えられるように練習していきましょう。口で伝えられないときは、絵カードなどを使って相手に伝える方法もあります。自分から何かアクションを起こすことに強い不安を感じる子どものなかには、「こんなことを聞くと叱られるのでは?」と思い込んでいる子もいます。園や学校の先生のほかに、地域の人ともつながって、よく行くスーパーの店員さん、交番のおまわりさんなどに、気にかけてもらえるようお願いすることも大切です。

◇環境を整えるゝこうすればうまくいく

例えば、次になにをしたらいいのかわからなくて困ってしまう子には、その子が理解しやすい手順表をつくることで、パニックを防ぎやすくなります。不安を感じやすい子の場合、うまくいっていても完璧ではないと感じて不安になることがありますので、意識して「いいね」と言葉がけをすることも大切です。その子に合う「こうすればうまくいく」というコツを見つけていきましょう。

迎見妙子

たけの子祭り

